

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 215-0004

住 所 神奈川県川崎市麻生区万福寺3丁目1番2号

氏 名 小田急商事株式会社

代表取締役社長 井上 剛一 印

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	小田急商事株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市麻生区万福寺3丁目1番2号		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	I	卸売業, 小売業
	中分類	58	飲食品小売業
主たる事業 の内容	スーパーマーケット (食食品および衣料・雑貨書品の販売)		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	1,553	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
		電話番号	
		FAX番号	
		メールアドレス	
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計画期間及び報告年度	2019 年度 ~ 2021 年度 (報告年度 2021 年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。
5 氏名(法人にあっては、その代表者)を記載し、押印することに代えて、本人(法人にあっては、その代表者)が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況 (第1、2、4号該当者等)

(1) 計画期間における温室効果ガスの排出の量等の状況

ア 温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
	(2018 年度)	(2019 年度)	(2020 年度)	(2021 年度)	
排出量 (t-CO2)	(実) 3,042	(実) 2,743	(実) 2,772	(実) 2,748	(実) 2,951
	(調) 2,960	(調) 2,668	(調) 2,682	(調) 2,723	(調) 2,871
削減率		(実) 9.8 %	(実) 8.9 %	(実) 9.7 %	(実) 3.0 %
		(調) 9.9 %	(調) 9.4 %	(調) 8.0 %	(調) 3.0 %

イ 温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値 (任意記載)

原単位等の活動量		原単位等の単位			
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標とした値
	(2018 年度)	(2019 年度)	(2020 年度)	(2021 年度)	
排出量原単位等の値					
活動量の値					-
排出量原単位等の削減率		%	%	%	%

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況等についての説明

第1年度	目標値の全社への浸透、省エネ照明機器の導入、定期点検および合理的な電力使用の徹底を行なった結果、削減を実施することができた。(▲9.8%) また、OdakyuShopからセブンイレブンへのフランチャイズ化により新たに省エネ設備が導入されていることも削減の一要因となっている。	
第2年度	ストア(向ヶ丘遊園店)が新規に開店し電力消費量の増加に伴い排出量が約159(t-CO2)増加したことから昨年に比べ削減率は減少する結果となった。(▲8.9%) セブンイレブンへのフランチャイズ化が2019年度中にほぼ完了しその影響による削減効果が定着化し、ストアコンビニの開店による増加要因と目標値に対する取り組みによる効果(削減要因)の差が増加として表れている。	
第3年度	店舗全般において昨年に比べ電力消費量は増加しているが、排出量は排出係数の変動および目標値に対する取り組みの効果により減少し、昨年に比べ削減率は増加する結果となった。(▲9.7%)	
計画期間における排出量増減等の評価 (第3年度の報告時に記載)		セブンイレブンへのフランチャイズ化による効果、継続的な取り組みにより目標を達成することができた。
上記評価を踏まえた改善対策など (第3年度の報告時に記載)		今後ストア、コンビニの店舗数増加が見込まれることから排出量削減を促進できるよう対策を検討する。

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況 (全社目標) (任意記載)

--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況

(1) 措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない装置を実施した場合は、実施した内容の最後に（追加実施）と記載してください。)

<p>計 画</p>	<p>1) ストア店舗において売場ならびバックヤードの天井照明器具LED器具に順次更新工事を実施する。 2) 冷媒フロンガスの新冷媒機器の採用と高効率圧縮機器の導入を推進する。 3) 電気の見える化を推進し今後の省エネ対策に向けデータを採取する。</p>	
<p>第1年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ストア店舗の照明設備の運用管理/保全管理 省エネルギー型照明設備の導入、LED照明機器の積極的導入。 ・ストア店舗業務用機器の効率管理/保全管理 業務用冷蔵庫、業務用冷凍庫の定期的な点検実施の徹底。 ・換気設備の効率管理/保全管理 事務所等の空気調和の継続管理、定期的な点検はもとより設定温度28℃での運 転 や空調使用時間の短縮を全事務所内で徹底。 	
<p>第2年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ストア店舗の照明設備の運用管理/保全管理 省エネルギー型照明設備、LED照明機器の積極的な導入。 ・ストア店舗業務用機器の効率管理/保全管理 業務用冷蔵庫、業務用冷凍庫の定期的な点検実施の徹底。 ・換気設備の効率管理/保全管理 事務所等の空気調和の継続管理、定期的な点検を行い設定温度28℃での運 空 転 や空調使用時間の短縮を全事務所内で徹底。 	
<p>第3年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ストア店舗の照明設備の運用管理/保全管理 省エネルギー型照明設備、LED照明機器の積極的な導入。 ・ストア店舗業務用機器の効率管理/保全管理 業務用冷蔵庫、業務用冷凍庫の定期的な点検実施の徹底。 ・換気設備の効率管理/保全管理 事務所等の空気調和の継続管理、定期的な点検を行い設定温度28℃での運 空 転 や空調使用時間の短縮を全事務所内で徹底。 	
<p>計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)</p>	<p>ストア、コンビニ店舗、事業所による措置の実施により排出量削減に貢献することができた。</p>	

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 前年度における再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(追加検討を実施した場合は「○」、追加の検討を実施していない場合は「×」を記載してください。また、追加検討を実施した場合はその結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	追加検討の有無	検討結果
太陽光	○	事業所などの電気設備補助電源としての部分活用を検討中
風力	×	
バイオマス	×	
未利用エネルギー	×	
その他()		
その他()		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度

(3) 前年度に実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入状況

(追加導入がある場合は「○」、追加導入がない場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	追加導入の有無	設備等の種類	追加導入の有無
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム (FEMS、BEMS等)	×
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他()	
EV、PHV、FCV	×	その他()	

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	特になし
第1年度	特になし
第2年度	特になし
第3年度	特になし

5 その他、地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	1) レジ袋無料配布の廃止 ストア業全店においてレジ袋辞退のお客様に代金2円引きを実施する。 2) プラスチック製品の回収 ペットボトルキャップ・トレイ皿・牛乳パック等を回収実施する。
第1年度	・レジ袋無料配布の廃止 ストア業全店においてレジ袋辞退のお客様に代金2円引きを実施。 ※レジ袋有料義務化(2020年7月)まで継続して実施 ・プラスチック製品の回収 リサイクル活動としてペットボトルキャップ・トレイ皿、牛乳パック等の回収活動を実施。
第2年度	・プラスチック製品の回収 リサイクル活動としてペットボトルキャップ・トレイ皿、牛乳パック等の回収活動を実施。
第3年度	・プラスチック製品の回収 リサイクル活動としてペットボトルキャップ・トレイ皿、牛乳パック等の回収活動を実施。

6 基準年度からのエネルギー起源CO₂の排出の量等の推移（1、2号該当者等）

(1) 事業者単位

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
エネルギー起源CO ₂ 排出量	3,042 t-CO ₂	2,743 t-CO ₂	2,772 t-CO ₂	2,748 t-CO ₂
原油換算エネルギー使用量	1,617 KL	1,481 KL	1,533 KL	1,553 KL
事業所の数	20	18	14	14

(2) 事業所等単位

ア 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量 (t-CO ₂)			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度

イ 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量 (t-CO ₂)			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度